

好意的性差別尺度日本語短縮版の作成

働く女性に対する好意的差別を考える

○森永康子¹・坂田桐子²・北梶陽子³・大池真知子^{3, #}・福留広大¹

(¹広島大学大学院教育学研究科 ²広島大学大学院総合科学研究科 ³広島大学ダイバーシティ研究センター)

キーワード：好意的性差別尺度，妥当性，働く女性

Benevolent Sexism Scale for Japanese

Yasuko MORINAGA¹, Kiriko SAKATA², Yoko KITAKAJI³, Machiko OIKE^{3, #}, and Koudai FUKUDOME¹

(¹Dept. of Psychology, ²Dept. of Behavioral Sciences, and ³Research Center for Diversity and Inclusion of Hiroshima Univ.)

Key Words: Benevolent Sexism Scale, validity, Japanese working women

目的

女性に対する差別的態度には、それまで考えられていたような敵意的なもの(Hostile Sexism: HS)だけでなく好意的なもの(Benevolent Sexism: BS)もあるという主張(Glick & Fiske, 1996 等)が登場して以来、HS よりも BS の方が女性に対する悪影響が強いことを示唆する結果が多くの研究で報告されてきた(Dardenne 他, 2007 等)。BS は両面価値的性差別尺度(Ambivalent Sexism Scale; Glick & Fiske, 1996)によって測定されてきた(日本語訳は宇井・山本, 2001)。今回、働く女性を念頭に、好意的性差別態度を少ない項目で測定できる新しい尺度の作成を試みた。

方法

回答者 ネット調査による613名(女性304名、20代から50代まで10歳ごとに同人数になるように割り付けた)。2018年3月実施。

使用尺度 1. 新BS：原尺度を参考に、3名の社会心理学者と1名の英語圏文学研究者の討議によりBSの3概念(家父長的態度、男女の差異、異性愛主義)に該当すると考えられる21項目とダミー1項目を作成した。なお、4名のうち3名がジェンダーを専門分野の一つとする。2. 原BS ($\alpha=.875$)、3. HS ($\alpha=.897$)、4. SESRA-S ($\alpha=.905$; 鈴木, 1994)、5. Modern Sexism Scale ($\alpha=.800$)、6. Old-Fashioned Sexism Scale ($\alpha=.698$; Swim 他, 1995)。すべて6件法。得点が高い方が差別的(あるいは伝統的)であることを意味する。

結果

発表者のうち2名が同一のデータに対して独立に分析を行った。1名は21項目について概念ごとに確認的因子分析を行い、負荷量の低いものを削除していった(AMOS25利用)。他の1名は回答者の80%以上が6件法の片側に偏っている6項目を削除した15項目について、概念も参考に、負荷量あるいは共通性の低い項目を1つずつ削除しながら探索的因子分析(最尤法、プロマックス回転)を繰り返した(HAD利用)。その結果、両分析ともに表1に示した8項目が残った。概念的にも妥当であると判断し、この8項目を採用することにした。表1は、この8項目の探索的因子分析結果である(確認的因子分析の適合度はCFI=.968, RMSEA=.062)。また、性別による多母集団同時分析を行った結果、制約条件間の尤度比検定は全て非有意であり、性別間で全パラメータが等しいモデルを許容できると判断した($\chi^2=100.369$, $df=53$, CFI=.963, RMSEA=.038; AMOS25利用)。8項目($\alpha=.806$)の平均値について、男女別に他の尺度との相関係数及び偏相関係数を算出した(表2)。

考察

新BSは原BSと強い相関があり、新BSと他の尺度との相関係数と、原BSと他の尺度との相関係数に大きな差異は見られなかった。HSを統制した時の偏相関係数に一部差異が見られるものの、新BSと他の尺度の偏相関の強弱のパターンは、原BSと他の尺度の偏相関の強弱のパターンと一致していた。これらのことから、新BSについて原BSを外基準とした場合の妥当性が確認されたと言えよう。

表1 8項目についての探索的因子分析結果(最終)

		因子1	因子2	因子3	共通性
家父長的態度	1 女性には家庭責任があるので、あまり責任の重い仕事を任せるのは気の毒だ	.750	-.012	-.031	.526
	4 体力のことを考えると、量が多く時間のかかりそうな仕事は、男性が担当する方がよい	.475	.222	.021	.430
	8 女性はあまり社会経験がないので、経験のある男性がサポートすべきだ	.728	-.041	.020	.508
男女の差異	14 男性が活躍できるのも、女性が陰で支えているおかげである	-.059	.877	-.077	.649
	15 子育てについては、男性は女性にかなわない	.035	.396	.257	.355
	16 弱い立場の人々に対する思いやりは、男性より女性の方が優れている	.186	.434	.014	.338
異性愛主義	18 恋愛や結婚など、異性と親密な関係をもっていない人は、本当に幸せとは言えない	.054	-.072	.748	.554
	19 仕事で成功したとしても、女性と恋愛や結婚をしていない男性は何か欠けている	-.057	.038	.767	.571
因子寄与		2.428	2.235	2.045	
α 係数		.729	.658	.716	
因子間相関			因子2	因子3	
		因子1	.658	.565	
		因子2		.501	

表2 各尺度との相関係数及び偏相関係数

	原BS	HS	SESRA	Modern	Old
男性					
新BS	.752 **	.317 **	.547 **	.167 **	.502 **
原BS		.316 **	.405 **	.123 *	.345 **
新BSを統制したHS			.502 **	.548 **	.544 **
原BSを統制したHS			.512 **	.560 **	.557 **
HSを統制した新BS			.471 **	-.015	.411 **
HSを統制した原BS			.288 **	-.071	.204 **
女性					
新BS	.740 **	.257 **	.479 **	.053	.462 **
原BS		.325 **	.416 **	.001	.402 **
新BSを統制したHS			.417 **	.414 **	.430 **
原BSを統制したHS			.397 **	.437 **	.412 **
HSを統制した新BS			.420 **	-.060	.399 **
HSを統制した原BS			.314 **	-.155 **	.294 **

** $p < .01$ * $p < .05$